# 「2015 年 世界クラシック選手権大会レポート」

平成２７年６月２３日
男子マスターズⅠ 松永一也

2015 年 6 月 5 日から 6 月 14 日､フィンランドのサロ市で 2015 年世界クラシックパワーリフティング選手権大会が行われました。

この大会に男子 66kg 級マスターズ１に出場しました。

国際大会の出場は２回目となりますが、前回同様、異国の地での調整の難しさを痛感させられました。特に開催地であるフィンランドは緯度が高く、また時期が夏至に近いため、昼間の時間が長く深夜でもずっと明るい状態が続きます。時差ボケで体内時計も狂い、また早朝からのハードスケジュールも重なり、現地滞在中はずっと寝不足状態でした。

そのような状態の中、私の出番は大会３日目です。それまでの間、如何にコンディションを整えるかが重要です。私の場合は、特に体重維持が課題でした。前回の国際大会では、体重が２キロ近く減ってしまうという失敗をおかしました。今回、その反省を踏まえ日本から携帯ごはんや電気鍋を持参し対策しました。

現地で食料の調達は出来ましたが、やはり異国の地の食事は合わず、結果的に日本から持参した食料が大正解となりました。ただ今回も１点失敗したことがあり、それは、現地で水（ペットボトル）を計６本程購入したのですが、その内５本が炭酸水という結果。仕方なく何度も振りながら炭酸を抜き飲むことにしました。これは、コンディションに影響があったかどうか不明ですが、またまた異国の大会の難しさを思い知らされました。

大会３日目、いよいよ自分の出番です。朝４時起き早朝６時からのコスチュームチェックと計量です。この時は既にこの生活リズムに慣れ（麻痺？)、体調は良い状態です。セコンドには、同じ富山県から出場された川中さんについてもらいました。

事前に各選手の国内選考会の記録が発表されており、私の持ち記録は３番目でした。上手く試合が運べば十分優勝を争える位置です。

まずはスクワットの第一試技。十分軽い重量スタートで難なく成功。次の第二試技。２発以上挙げられる重量ですが、深さを取られ失敗。切り返した瞬間、自分でも明らかに失敗と分かりました。この失敗で優勝争いから脱落したと思い、緊張の糸が切れてしまいました。続く第三試技は同重量を取り、ベンチプレスも３本取りしましたが、気持ちを切りかえられずの状態でした。

最後のデッドリフトを残し、ここで再度、優勝の望みがでてきました。ライバルは地元フィンランドの選手。サブトータルで私が 20 キロ優勢です。

私の第一重量は 220 キロ。相手選手はなんと 250 キロ。お互いに成功し逆転 10 キロ差。続く第二重量は、私 240 キロ、相手選手はその重量にプラス 2.5 キロをかぶせ 262.5 キロ。その第二試技 240 キロ試技中、胸が攣りかけるアクシデント発生。重量的には余裕があっ

たため何とか成功。しかし、このアクシデントで第三試技の重量設定が難しくなりました。

ここで相手選手が第二試技失敗。私はその試技を見ていなかったため、状況が分かりませんでしたが、山口団長から「あれは次も挙がらないぞ」と言葉をかけてもらいました。その言葉から、第三重量は無難に 2.5 キロでも上乗せすれば優勝が固くなると判断し、242.5 キロを申請。しかし、挙げきるもフィニッシュでグリップが持たず失敗。これは正直想定外でした。

最後は相手選手の結果を待つのみです。相手選手が最終試技を失敗すれば、私の優勝が決まります。地元フィンランド選手と言うこともあり観客席からは大声援。

結果、少し浮いて失敗。私の優勝が決まりました。

その瞬間、バックヤードで山口団長、セコンドの川中さん、一緒に試技を行った我那覇さん、源田さん、富田さん、そしてそのセコンドの方々から盛大な祝福をいただきました。正直、その瞬間は「やったー」程度としか思っておりませんでしたが、時間が経つにつれ、帰国した正に今日この頃、優勝、世界一という結果をしみじみと実感してきました。

今回、長いようで短い時間、共に戦ったマスターズ日本代表の皆様（私にとって大先輩の方々）とお会いしお話でき、非常に良い経験、刺激をいただきました。本当にありがとうございました。

今年９月の石川県で行われる日本スポーツマスターズで、また皆様方にお会いできることを楽しみにしております。

写真　山口団長と男子マスターズ１の仲間たち